

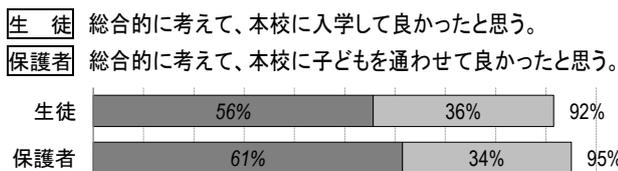
学校評価アンケート集計結果のご報告

令和5年3月
静岡学園中学校・高等学校

本校では、「時代が求め、世界が期待する人材」を育むべく、「孝友三心」を目指すところとして、自主自立の精神、共生の精神、真理と生命を尊ぶ精神、進取の精神を教育理念に、より良い学校づくりを目指して改革を続けています。教育活動の改善、環境の整備のために様々な取り組みを重ねて参りました。その成果の確認とともに、改善課題の的確な把握を図るべく、本年度も学校評価アンケートを実施いたしました。集計結果に分析を加え、「生徒のための改革」の進捗と今後の方向性をお伝えするために本書面を起こしました。ご高覧を賜りますよう、お願い申し上げます。

校長 鈴木 啓之

生徒、保護者に「本校に入学して／入学させて良かった」と評価されることは、生徒を預かる学校として最低限満たすべき要件と考えます。肯定的な回答が占める割合は、生徒が92%（昨年も92%）、保護者が95%（同94%）でした。「どちらかと言えば」との但し書きなしの「そう思う」をさらに増やすべく、教育活動のさらなる改善に取り組んで参ります。



—— グラフの見方（凡例と集計方法について） ——

凡例： ■ そう思う □ どちらかといえばそう思う

集計結果は、特に断りがない場合、「わからない」を除いた有効回答を分母とした百分率で表示しています。棒グラフの右端外側に添えた数値は肯定的な回答が占める割合（肯定率）です。なお、数値（百分率）は各々小数点以下を四捨五入しているため、表示が一致しないことがあります。

学校への満足度に特に強く影響する項目もデータの解析の中で把握できました。生徒の場合、「進路実現へのサポートが充実している」「困りごとに先生が誠実に対応している」「学校の授業で進路希望を叶える学力がつく」「学校行事で成長を感じ、絆が結ばれる」との相関が、特に強固です。教育活動全般の充実を図る中でも、これらの項目には改善の余地を残さぬよう、優先順位を明確にした取り組みを進めます。保護者の回答データでも、「進路実現へのサポート」「将来を拓く学力の獲得」などが総合的な満足に影響を与える度合いが大きくなっています。啐啄宣言でお約束している「生徒が向上したいと思ったときを逃さないサポート」を着実に実行していく所存です。生活・学習・進路の各指導の方針も改めて明確に示す

とともに、その成果もしっかりと伝えて参ります。

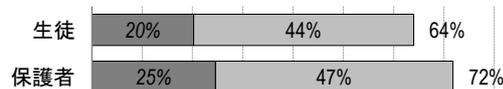
【授業・学習指導】

学校の教育活動の中核である学習について幾つかの観点で、生徒と保護者の双方に評価を求めました。新しい学力観の下での学習指導の充実を図るべく、教材研究に力を入れるとともに校内外の優れた実践にも学んでいます。「進路希望を叶える／将来を拓く力が身につく授業」については、昨年とほぼ同じ評価に止まり、改善への一層の注力が必要と考えます。「日々の勉強への取り組み」にも顕著な上積みは見られません。考査や模試の振り返りなどを通じて学習行動の改善を促すとともに、生徒が個々に取り組む学習課題も、意欲をより刺激するものに改めます。

生徒 授業にしっかり取り組めば、進路希望を叶えるだけ力がつく。
保護者 学校の授業を通し、子どもは将来を拓く力を身につけられる。



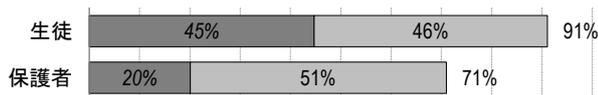
生徒 私は、日々の勉強に見通しを立てしっかりと取り組んでいる。
保護者 子どもは、学習習慣を身につけ、日々勉強に取り組んでいる。



個々の生徒のニーズに応じた適切な対応の必要性が高まる中、以下2項目での評価はわずかに向上しました。生徒一人ひとりが抱える悩みや課題への寄り添いに、引き続きしっかりと取り組んで参ります。

生徒 学校生活(学業、進路を含む)の悩みに、先生方は親身に届けてくれる。

保護者 勉強のわからないことや進路の悩みは、学校で解決できているようだ。

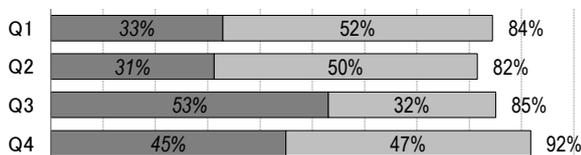


【進路指導、キャリア教育】

「生徒の可能性を信じ、生徒の隠れた力を引き出し、一人ひとりの夢と希望の実現を全力で支援する」のが本校の校是です。「夢の発見」「それを実現するのにふさわしい進路の選択」「進路希望の実現」といったフェイズの一つひとつにおける指導法の開発や組織的な指導態勢作りにも引き続き取り組んでいます。

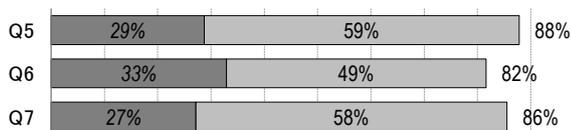
生徒には以下の質問で現状への評価を求めました。Q1 がわずかに後退する一方、Q2、Q3 が小幅ながら改善し、Q4 は昨年と同じ評価となりました。進路について考えるときに必要な資料やデータは整っていますが、その有効な活用法を身に付けてもらう指導にもさらなる注力が必要と考えます。進路指導や体験学習の場も一層の充実を図り、生徒が内省を重ねて未来の自分を発見できるよう後押ししていきます。

- Q1 講演、ガイダンス、面談などは、進路選択に参考になる。
- Q2 進路について考えるのに必要な情報は、十分に手に入る。
- Q3 私は、自分の将来に目標や夢を持っている／持てると思う。
- Q4 進路希望の実現に、学校はしっかりサポートしてくれる。



保護者には、以下の質問でお尋ねしました。Q5 は中学での低調が目立ちます。先の進路を考えるには早すぎる時期ではありますが、6 年を通した方針の周知はしっかり行っていくべきと考えます。Q6 では高2、高3 はかなり大きく改善しました。一方、Q7 はわずかに後退しています。低下が見られたケースで対策を遅滞なく講じるべく、検討を進めています。

- Q5 進路指導の方針はわかりやすく、指導内容にも納得できる。
- Q6 子どもは、自分の将来に目標や夢を持つようになった／なる。
- Q7 子どもの進路希望の実現に、学校はサポートの態勢を整えている。



進路指導やキャリア教育の現状に対しては教職員の間でも現況への問題意識が既に深く共有されてい

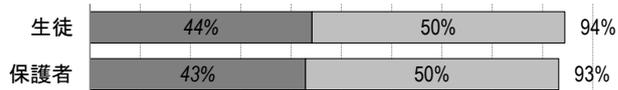
ます。改善に向けた教員間の協働も活性化してきているところです。その成果が生徒一人ひとりの行動や考え方に現れてくるのも間もなくと存じます。

【生徒指導、自律性の涵養】

生徒指導の場で大切にしているのは、生徒の自主性や自律性の涵養です。ルールや規則をただ守るのではなく、生徒が自ら取るべき行動を考えて、正しく選択する力を養うことに注力してきました。災害などの対応は、改めて生徒の意識と行動を確かめていきます。生徒指導の方針もよりわかりやすく合理的なものを改めて打ち出す必要を確認しました。

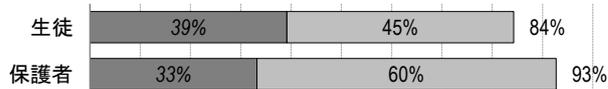
生徒 私は、学校の決まりや集団生活のルールやマナーを自分から進んで守っている。

保護者 子どもは、決まり事や約束、社会のマナーを自ら進んで守っている。



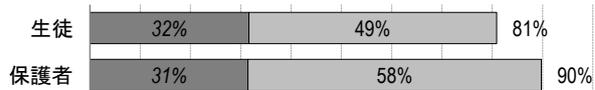
生徒 私は、地震、火災、事故などが起きたとき、落ち着いて適切に行動できると思う。

保護者 地震、火災、事故などが起きたときの学校の対応は明確で安心できる。



生徒 学校生活上の約束事はわかりやすく示されていて、指導には十分納得できる。

保護者 生徒指導の方針はわかりやすく説明されており、内容も納得がいくものだ。

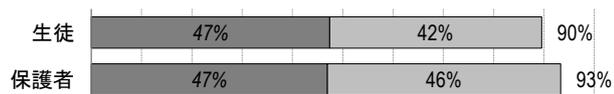


周囲にいる他の生徒の言動から受ける刺激は生徒の成長（行動や考え方の変容）に重要であるだけでなく、我が身を振り返る材料として、自律性の涵養にも小さからぬ影響を与えます。以下の質問への生徒の肯定率はようやく 9 割に近づきました。生徒が互いに刺激し合い、成長に向かう場の創出には、これまで以上の力を入れ、「どちらかと言えば」との但し書きがつかない「そう思う」をさらに増やしていきます。

生徒 他の生徒の目標に向けた努力や姿勢に刺激を受けて、自分も頑張れる。

保護者 他の生徒の目標に向けた努力や姿勢は、子どもにとって良

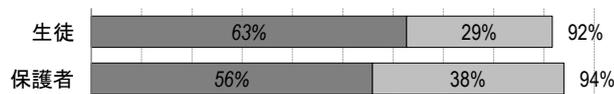
い刺激になっている。



生徒の成長には周囲からのポジティブな刺激が必要であり、そうした刺激を歪める「いじめ」や「人間関係のトラブル」がゼロになるよう努めております。以下の質問への肯定率は9割以上を維持しています。質問文の前半の実現に加え、楽しく前向きに取り組める活動の場の充実も図っていききたいと思います。

生徒 私は、いじめや人間関係のトラブルなく、楽しく毎日の学校生活を送れている。

保護者 子どもは、いじめや人間関係のトラブルなく、学校生活を楽しんでいる。



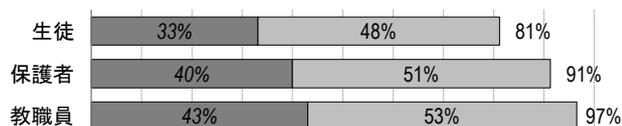
爽り多き学校生活を送る土台は健康な生活、とりわけ規則正しい睡眠と食事です。「睡眠と食事を規則正しくとり、健康的に毎日を過ごしている」に肯定的に答えた保護者は2年前の84%から昨年の83%を経て今回は82%と減少が続きます。日々の生徒の健康状態の観察にも、これまで以上の注意を向けます。

また、生徒に自律を求める以上、教職員が服装や言動といった「基本」から模範を示す必要があります。三者とも肯定的な回答が増えましたが、生徒の評価はまだ厳しく、教員の一層の配慮が必要と感じます。

生徒 先生は服装や言動で社会人としての模範を示している。

保護者 教員の服装・言動は、生徒に社会人としての模範になっている。

教職員 私は、社会人としてのマナーを意識して職務に当たっている。



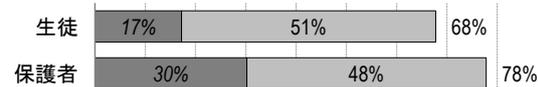
【建学の精神、教育理念への理解】

建学の精神や教育理念の下で、教職員がまとめ、その実現に邁進することは私学の存在意義そのものですが、教職員の独善にならぬよう生徒や保護者の理解と共感を得た上で、教育活動を進めていきます。日々の学校生活の中で、生徒とともに「孝友三心・啐啄宣言」や「教育理念の4つの精神」について考え

る機会を持つようにしていますが、生徒の肯定率はまだ7割前後にとどまっており、改善の余地を大きく残します。建学の精神や教育理念に言及しながら、個々の指導に込めた意図がどこに向かおうとするものかより深く理解してもらえるように努めます。

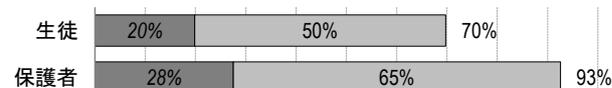
生徒 「孝友三心」「啐啄宣言」を意識して学校生活を送っている。

保護者 「孝友三心」や「啐啄(そったく)宣言」の内容を知っている。



生徒 私は、教育理念の4つの「精神」をきちんと理解している。

保護者 学校は、建学の精神や教育理念に沿った教育を行っている。

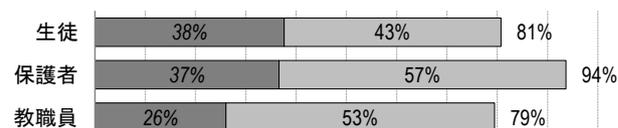


教職員に尋ねた「建学の精神や教育理念の下でのまとめ」「生徒の前で孝友三心に言及する機会」では未だ不十分とする回答が多く、今回のアンケートで問題意識を改めて共有できました。「現状に満足することなく、生徒のための改革に取り組んでいる」との答えは大多数ですが、新たな挑戦も、建学の精神や教育理念という私学ならではの「拠り所」を見失わずに行い、学校の伝統を築いていきたいと考えます。

生徒 先輩方の活躍や校内の文化に、学校の歴史と伝統を感じる。

保護者 本校には歴史や伝統が備わっている/備わってきた。

教職員 学校には歴史と伝統が備わってきたと感じる。



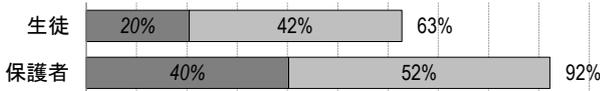
【特別プログラム】

本校では、生徒の好奇心を刺激し、人間力を高めるべく、それぞれ明確な目的を持った6つのプログラム(SGT、日本の伝統文化継承プログラム、ボランティア活動、インターナショナルプログラム、緑風塾、地域共生活動)を整えて、その充実を図ってきました。コロナ禍が続く中、プログラムの実施にはまだ様々な制約が残るところもあり、改善は思うに任せない部分があるのも実情ですが、これからも可能な限りの工夫を凝らして、各々の目的の達成を確実なものにしていききたいと思います。学年によっては大きく進展が見られたケースもあり、今後の土台とします。

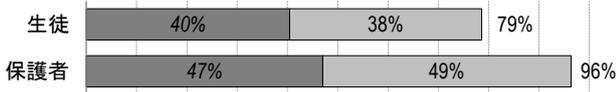
生徒 SGTや緑風塾の活動には、目的意識をもって積極的に取り

組んでいる。

保護者 SGTや緑風塾など、本校の特色ある教育には大きな期待を持っている。



生徒 ボランティアや地域共生活動で様々な気づきや学びがある。
保護者 ボランティアや地域共生活動は、社会の一員の自覚を育む。



生徒 伝統文化継承や国際交流には、意欲をもって取り組んだ／取り組みたい。



各プログラムでの目標達成へのコミットメントや指導手法の確立を目指す研鑽などに対する教職員の意識は以前に増して高まってきました。特にSGTの指導法研鑽には力を入れる教員が多くを占めます。ポストコロナに向け、さらに取り組みを加速し、特色ある教育活動を通じた実りをより大きくしていきたいと考えております。今後の進展にご期待下さい。

【部活動、学校行事、生徒会活動】

部活動は、「啐啄宣言」に表現されている「あきらめることなく自分の可能性を追求する」「自主性と自律心をもって静岡学園の生徒としてふさわしい行動をする」「友情と、先輩後輩の絆を深め、先生方から人間としてのあり方を学ぶ」などの、『生徒の宣言』を具現する大切な場との位置付けにこれまでと何ら変わりはありません。肯定的な回答をさらに増やすべく、活動の環境や指導体制を整え、生徒一人ひとりが「努力と活躍の場」を持てるように取り組んで参ります。学校行事も含めて課外活動の広報には不足があったと認識しております。行事に参加した生徒の声なども、しっかりと伝えていきたいと思ひます。

生徒 私の所属する部活動は、環境(練習場所、顧問の指導など)が整っている。

保護者 学校は、部活動の練習環境や指導体制を整え、生徒の頑張りを応援している。



保護者 行事や部活動での生徒の頑張りが活躍は、通信やHPで十

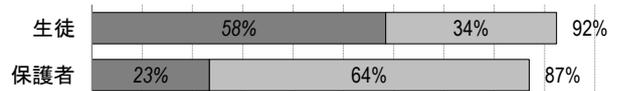
分に伝わってくる。



静学祭や体育祭などの学校行事では、自分の成長や周囲との絆の深まりという目的の達成を実感できている生徒がさらに増えています。保護者の評価では依然として「どちらかと言えば」の但し書きがつく肯定が多く、内容や運営に更なるブラッシュアップが必要です。また、前述の通り、広報の不足も改善を必要とする問題です。今後も、安心・安全を最優先しつつ、行事に込めた教育的意図の実現を図ります。

生徒 静学祭や体育祭では、自分の成長や周囲との絆の深まりを実感できる。

保護者 静学祭や体育祭の内容・運営には、教育的な意図がしっかり感じられる。



自主性・主体性の涵養に関する教職員の回答には、問題意識を残す「但し書き付き」がまだ多く含まれます。生徒に任せる部分の拡大を図りたいと思ひます。

教職員 生徒会活動や部活動での指導を通じて、生徒の自主性・主体性が育てられている。



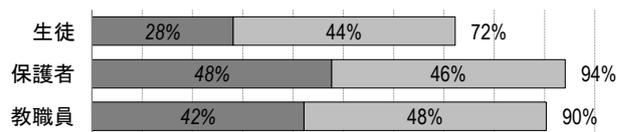
* * * * *

学校がひとつにまとまるには母校／職場に対して一人ひとりが誇りを持てることが肝要と考えます。校歌を歌う場面に焦点を置く生徒の評価は低めながら、保護者からの評価は昨年度を上回りました。コロナ対応のため、「校歌静聴」とし、歌う場面を作らずとしたため、低評価はいたしかたないと考えます。

生徒 校歌を歌うとき、静岡学園の生徒であることに誇りを感じる。

保護者 子どもは、静岡学園の生徒であることに誇りを感じている。

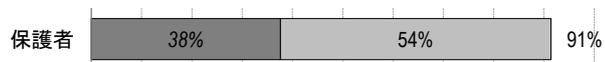
教職員 私は、本校で教育活動に当たれることに誇りを感じている。



学校評価アンケートへのご協力に、改めて御礼を申し上げます。お寄せ寄いただいた回答は学校への要望そのものです。結果の一つひとつに真摯に向き合い、より良い学校作りに役立てる所存です。昨年を

わずかに下回る評価に、決意を新たにしております。

保護者 学校や先生方は、生徒・保護者の意見や要望に対し真摯に
向きあってくれる。



本報告書へのご意見・ご質問は下記にて承ります。

TEL 054-200-0191 FAX 054-200-0195

教務部研修課 堀川 雅史